

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
毎月 1日発行
平成 27 年 5 月号



平成 27 年度 全農千葉県本部園芸事業の取り組み

全国農業協同組合連合会 千葉県本部
園芸部長 熱田 義之

全農千葉県本部では、食の安全・安心対策、J・A・市場・千葉県・(公社)千葉県園芸協会をはじめとした関係機関と連携した生産振興と産地間連携をはかり、販売力強化・生産者手取りの最大化につなげるため、以下の取り組みを進めます。

全農千葉県本部園芸部では、「オール千葉」として生産基盤を強固にし、安全・安心で美味しい青果物、愛情ある花きの生産振興と販売力強化による生産者手取りの最大化に向け、次の重点実施策に取り組みます。

1 食の安全・安心対策の取組強化

「もっと安心農産物」生産・販売運動に取り組み「食の安全・安心」を確保します。また、危機管理体制を強化し、昨今問題となっている異物混入のリスクについては生産者に向けた異物混入防止に関する啓蒙活動を継続的に実施します。

2 J・Aと連携した生産振興の取組強化

全農千葉県本部では、昨年 8 月に千葉県・(公社)千葉県園芸協会とともに「千葉県園芸産地連携推進会議」を開催しました。

この会議では、J・Aや市場、関係機関が一堂に会し、産地間連携によるオール千葉体制の構築に向け「品目別協議会」を立ち上げ、主要 4 品目（にんじん・ネギ・トマト・さつまいも）について、出荷規格の統一や県統一選果基準表の作成、収量アップ対策や合同販促活動の展開等の具体的な取り組みを報告・確認しました。

平成 27 年度においては、他の主要品目・地域特産品目についてもこの取り組みを進めていきます。

3 園芸販売事業強化策の実践

パートナー市場との連携を強化し、実需者の求める販売ロットに対応するため、主要 7 品目を中心に販売事業強化策の実践による J・A域を超えた広域での一元販売をすすめます。

また、生産者の労力軽減による作付面積の拡大をはかるため、モデル的な集出荷・保管調整施設等の設置を進めます。

4 系統結集による花き事業の強化

生産組織の再編と品質の平準化により、生産・販売の維持拡大をはかります。また、集荷場での事務軽減と迅速化をはかるため、花き J・A集荷分荷システムを導入します。

5 直販事業の強化と販路の拡大

野菜の加工・業務用需要の高まりを踏まえ、新たな販売先を開拓し、生食用と並行して生産振興を基本に取り扱いを強化します。

県本部機能を向上させるため、青果物の貯蔵・一次加工・配送等に対応可能な体制を整え、事業競争力を強化します。

6 収量アップ・コスト低減に向けた資材の提案

園芸資材事業では、ハウス環境モニタリングシステムの導入や低コストハウスの普及拡大を進めます。また、青果物の出荷規格の統一に合わせ、出荷資材の統一に向けた取り組みを進めます。

A 級		B 級		B			ム	マル
2L		L		果形				
M		S		チャック				
2S		3S		花落ち				
規格外				(実数)				
				(拍数)				
				(実数)				
				(拍数)				
				(実数)				
				(拍数)				
着色基準								
No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7		

トマト千葉県統一選果基準表

流通情報



南房総『^{アワハナ}awahana!!』切花展示会開催！ ～^{クセ}個性のある生産者が勢揃い～

安房農業事務所 改良普及課

(執筆者：(現)夷隅農業事務所 改良普及課 普及指導員 白井 温)

安房地域の花き生産者で組織される南房総『awahana!!』が、市場関係者を招き、切花展示会を行いました。個人の出荷者が約 9 割を占める安房地域ですが、産地の若手が一丸となって安房の花の魅力を PR することができました。

1 南房総『awahana!!』とは？

安房地域の若手花き生産者を中心に、栽培品目や地域を越えて情報交換を目的に活動する団体です。安房地域は個人の出荷者が多く、栽培品目も多岐にわたるため、生産者同士の交流がほとんどありませんでした。そこで、生産者のネットワークを深めるために平成 15 年 2 月に南房総『awahana!!』が設立されました。本会は更なる発展を目的に平成 25 年 1 月に組織整備を行いました。

会では県内外の生産者や市場、仲卸、フラワーデザイナーとの意見交換、仲卸と協力した販売促進活動、市場関係者を対象とした農場公開、会員の資質向上を目的とした栽培研修会等を行っています。

2 切花展示会の開催

平成 27 年 1 月 23 日「たてやま夕日海岸ホテル」で、南房総『awahana!!』主催の切花展示会を開催しました。生産者 16 戸、種苗会社 3 社が出展し、切花展示会と情報交換会を開催しました。当日は生産者、市場、仲卸、小売店、種苗会社、関係機関等合わせて 129 名の参加がありました。

会長からは「生産するだけでは厳しい時代となっており、生産者から営業をかけ販売努力をしていかないといけない。生産者が一丸となって安房の花を PR して、市場評価を更に高めていきたい」と挨拶がありました。

出展者は生産している花を出展ブースに飾り、自園のこだわり等を来場者へ PR することができました。また、展示会では市場関係者、

生産者同士も情報交換し、お互いの PR 方法を学び合い、刺激し合う良い機会となりました。

出展者からは「買参人から直接商品評価を聞いた」、「新たな取引先が増えた」等の感想が出され、それぞれの経営発展へつながりました。

なおこの取り組みは、新聞 2 社に記事が掲載され、注目されました。

3 今後について

会員は 36 名から 44 名と増え、平成 27 年 2 月の役員改選により、新体制で活動をしています。個人出荷者が多く、個性の強い生産者が多い地域ですが、商材が豊富で品質も高く、今回のように産地が一丸となって PR を行うことで業界からの注目を浴びることは間違いありません。会員たちは「今後、会本来の生産者同士のネットワークを活かし、市場関係者へ向けた PR イベントを開催していきたい！」と熱く語っており、今後の活躍が期待されます。



写真：出展者自己 PR に耳を傾ける参加者達

頑張る産地



ブルーベリーで故郷を元気にしたい

君津農業事務所 改良普及課
上席普及指導員 細井 美穂

自然豊かな木更津市真里谷の観光ブルーベリー園「フルーツ街道夢農場」の後継者、鈴木秀雄さんは、地域のブルーベリー農家の若き担い手です。体験型観光農業で地域を元気にしたい！と夢を語ります。

1 就農のきっかけ

鈴木さんはもともと自然が好きで、高校卒業時に就農も考えましたが、「農業は儲からない」という話を聞き、一度はあきらめました。自然、環境を学ぼうと大学では水環境を専攻し、卒業後は水道関係の企業で営業マンをしていました。しかし仕事の内容は自然とはほど遠いもので、また都会での一人暮らしでは自然とふれあう機会が少なく、たまに帰る実家の風景に癒されていたそうです。そして東日本大震災を機に、故郷で地に足が着いた生活をしたいと思い始め、就農を考え始めたそうです。



ブルーベリー園にて

「夢農場」は平成 16 年にお父さんがブルーベリーを植栽し、平成 20 年に観光摘み取り園として開園しました。鈴木さんが就農するまでは、お客様は個人のみで、年間入客数は 1,000 人程度と観光農園として経営するには厳しいものであり、就農を迷っていましたが、友人や知人の応援や他県での優良事例を学ぶことにより成功へのヒントを得ることができ、平成 25 年に就農しました。

2 就農してから

就農当初はブルーベリーの管理も全くわからず、栽培方法を 1 年かけてじっくりと学び、その結果、自園の 1,500 本あるブルーベリーを、ほぼ一人で剪定したとのことでした。

就農を契機に、今まで受け入れていなかった観光バスの受け入れを試しに行ったところ、今までの倍の 2,000 人を集客することができ、「次の夏はもっとがんばろう」と決意したそうです。

そしてもっとお客さんに楽しんでもらうには？と考え、自分の農場で採れた果実を使ったお酒、ジュース、ジャム、カップアイス、ハチミツなどのオリジナル加工品の開発、販売を始めました。今年 3 月には地元ショッピングモールで開催されたファーマーズマーケットに参加し、ブルーベリー酒と地元作家作のイヤリングをセットにして販売したところ、大変好評だったとのことでした。



ブルーベリーをモチーフにしたイヤリングとブルーベリー酒のセット

3 これからの夢

ブルーベリー園の開園期間は 7 月中旬から 9 月上旬までの短い期間です。将来は年間を通じてお客様を呼び込むのが夢とのこと。そのためにブルーベリー以外の品目を模索しています。現在は荒れ放題であった竹林を開墾し新たにイチジク園の開園を目指しています。

ただ作って売らただけでなく、お客さんと会話し、喜んでもらえる農業をしたいというのが鈴木さんのスタイルです。高齢化により耕作放棄地が増えてきた故郷を元気にしたい、農業で地域を元気に盛り上げたいと語ります。営業で培ったフットワークの良さを生かし夢に向かって鈴木さんの挑戦は続きます。



広い芝生が印象的なほ場

流通情報



トマト先進産地（熊本県）の調査報告

公益社団法人 千葉県園芸協会
産地振興部 主査 榎 晋介

県では、昨年度から主要 4 品目（にんじん、ねぎ、さつまいも、トマト）で産地連携による「オール千葉」の取組を行っています。その一環として、今年の 2 月にトマトの先進産地である熊本県の調査を行ったので報告します。

1 視察の概要

熊本県は全国有数のトマト産地であり、H25 の産出額は 410 億円（千葉：150 億円）、栽培面積は 1,140ha（千葉：835ha）であり、ともに全国第 1 位となっています。また、県全体として戦略的に販売を実施するために、ゆるキャラ「くまモン」の活用や、熊本県経済連による県内産地の連携など先進的な取組を行っています。

そこで、県産トマトの生産・販売力の強化と産地の活性化を図るため、主要 JA、全農千葉県本部、県及び千葉県園芸協会と先進産地である熊本県の調査を行いました。

2 JA やつしろ

JA やつしろは、八代地域（八代市・氷川町）を管轄しており、古くは「い草」の大産地でしたが、現在はトマトを始めとした園芸品目の大産地となっています。全体の販売金額は約 239 億円であり、トマト、ミニトマトの販売金額が半分以上を占めています。トマト、ミニトマトともに、H22 から農家戸数は減少していますが、栽培面積は概ね現状を維持し、出荷量・販売金額については大幅に増加しています。

JA やつしろの特徴の一つとして、同一方式（イタマーズ方式）の選果機を管内全ての選果場に導入したことが挙げられます（国庫事業）。これにより、JA やつしろから出荷されるトマトについては、規格・品質の平準化が図られました。さらに、「くまモン」がプリントされた共通の出荷箱を使用することで、同一箱・同一品質の出荷を実現しています。



JA やつしろトマト選果場中央館

また、トマト黄化葉巻病対策として、作付停止の申し合わせ（定植：8 月 15 日以降～収穫：6 月 20 日まで）を JA やつしろだけでなく、管内の任意組合を含めて行っています。

3 JA 熊本経済連の概要

JA 熊本経済連では、平成 20 年から、青果物コントロールセンター（以下、センター）を設置し、「県域機能による生産及び販売力の強化とコスト低減の実現」に向けた取組を行っています。センターでは、主要品目（トマト・メロン・すいか等）ごとに各 JA の販売担当と経済連の品目担当者が集まり、ワンフロアの作業で、各種情報の共有化、生産・販売戦略づくり、JA 枠を超えた取引先の共有や JA 間積み合わせ輸送等の調整、県一本による販促活動等について毎週打合せを行っています。

センター設立時には、14JA 中わずか 2 つの JA ししか参加していませんでしたが、センターで行う情報共有、市場重点化への取組などメリットから、現在では県内 11JA が参加しており、販売額としては 98% をカバーしています。また、量の安定感を実現することにより、センター発足後、販売目標をほぼ達成しています。

4 千葉県としての取組

こうした地方の大型産地に対抗するためには、大消費地に近い千葉県といえども、県全体の産地連携を図っていく必要があります。そこで、当協会では、トマトの品目別協議会を核として、県産トマトの合同販促や、品質の向上・均一化に向けた取組等を全農千葉県本部、県と連携して実施していきます。



JA 熊本経済連での情報交換



地床アールス系メロン半促成栽培における えそ斑点病抵抗性優良品種の選定

農林総合研究センター 暖地園芸研究所 野菜・花き研究室
(執筆者：(元)同研究室 研究員 水野 真二)

県内のアールス系メロン産地では、難防除土壌病害であるえそ斑点病対策として、抵抗性品種が利用されていますが、果形やネットの品質が低下しやすい問題があります。そこで、昨年行った第 62 回千葉県野菜品種審査会(アールス系メロンの部)により、品質に優れた抵抗性品種を選定しました。

1 はじめに

長生地域ではアールス系メロン栽培が盛んであり、平成 26 年産で生産者数 31 戸、栽培面積約 8 ha、産出額約 2 億円となっています。この地域では、3 月下旬～4 月中旬に定植し、6 月下旬～7 月中旬に収穫するハウス半促成栽培が行われ、中元向けの高級メロンが生産されています。

産地では、難防除土壌病害であるメロンえそ斑点病対策として、抵抗性品種が導入されています。しかし、抵抗性品種は果形が乱れる、ネットの品質が劣るなどの問題点が以前から指摘されています。そこで、えそ斑点病抵抗性を有し、品質に優れたアールス系メロン品種の選定を行いました。なお、この試験は、第 62 回千葉県野菜品種審査会(アールス系メロンの部)として実施しました。

2 優良品種の条件

この審査会で求められるえそ斑点病抵抗性品種の条件は、果形の乱れがなく、ネットの品質(密度、盛り、揃い)が良好で、糖度が高い等の特性を有したものとしました。

3 審査結果

出品された 13 品種のうち、入賞した上位 4 品種は、「UA-212」(現：「ソナタ初秋系」、横浜植木(株))、「MKS-M510」(みかど協和(株))、「14AF50」(横浜植木(株))、「MGE58」(現：「ビセンス春秋系」、(株)神田育種農場)でした。

入賞した品種は、長生地域の慣行品種である「ソナタ春秋系」と同等以上に果形とネットの品質が良好で、14 度以上の糖度がありました(表、図)。いずれも半促成栽培の作型に適し、普及性が高いえそ斑点病抵抗性優良品種と考えられました。農林総合研究センターでは、今後もえそ斑点病対策を検討し、情報提供を行っていく予定です。



「UA-212」



「MKS-M510」



「14AF50」



「MGE58」

図 入賞品種の果実

表 入賞品種の果重、果形、ネットの品質等

品種名	1 果重 (g)	果実の大きさ(cm)		果径比 (縦/横)	果形	ネットの品質			糖度 (Brix)
		縦径	横径			密度	盛り	揃い	
UA-212	2,121	15.3	15.2	1.01	3.8	4.1	3.9	4.0	14.4
MKS-M510	2,120	15.1	15.1	1.00	3.7	3.9	3.8	3.8	14.0
14AF50	2,746	16.9	16.4	1.03	3.6	3.9	3.8	4.1	15.0
MGE58	2,273	15.5	15.7	0.99	3.4	3.6	3.8	3.4	16.2
(参考)ソナタ春秋系	2,388	16.4	15.5	1.06	3.5	3.4	3.9	3.8	14.1

注 1) 平成 26 年 3 月 25 日定植、6 月 25 日収穫、親づる 1 本仕立て 1 果どり、栽植株数 2,174 株/10a

10a 当たり施肥量は窒素、りん酸、加里ともに 7.8kg、株間 40cm、条間 90cm の 2 条植え

2) 果形及びネットの品質は、優れる(5)～劣る(1)として評価した

農地中間管理事業を活用して 農地の規模拡大・集約化しよう!!

本事業は農地所有者と農業経営者の間に農地中間管理機構が立って農地の貸借等を行い、担い手への農地の集積・集約化を加速するために、昨年からはじめた事業です。

今年度は、下記の内容で農地の借受けを希望する方を募集します。

記

1 募集期間

6月1日から、随時募集を開始します。
(予定)

2 募集結果の公表

(1) 協会のホームページに以下の内容を公表します。

- ・氏名又は名称
- ・借受けを希望する区域内の農業者、区域外の農業者、新規参入者の別
- ・借受けを希望する農用地等の種別、面積
- ・借受けた農用地等に作付けしようとする作物の種別

(2) 公表は、2月、7月、10月に行い(予定)必要な場合は、臨時で公表を行います。
なお、農地の紹介は公表後に行います。

3 応募方法

協会のホームページ又は市町村の窓口にて申込書を用意してありますので、必要事項を記入して提出してください。

4 応募資格

- (1) 全ての農地を効率的に利用し、耕作または養畜の事業に常時従事する方。
- (2) 募集結果の公表に同意していただける方。

5 お問い合わせ先

公益社団法人千葉県園芸協会 農地部
電話番号 043-223-3011
<http://www.chiba-engei.or.jp/mgtmech.html>

千葉県野菜品種審査会の 開催について

昭和 27 年から千葉県内の野菜産地に適した優良品種の選定と、野菜種子の素質改善を通じて、県産野菜の品質向上と野菜産地の積極的な振興を図ることを目的として、野菜品種審査会を開催しています。

◇第 63 回千葉県野菜品種審査会の開催計画

平成 27 年度は、とうもろこし、ほうれんそう、にんじんの 3 品目を対象に実施します。

審査会の開催場所、審査時期等は下記のとおりです。

【とうもろこし】

- | | |
|--------|-------------------------------|
| ① 作型 | マルチ栽培 |
| ② は種期 | 4月下旬 |
| ③ 審査時期 | 7月中旬 |
| ④ ほ場地 | 館山市 |
| ⑤ 担当機関 | 農林総合研究センター
暖地園芸研究所 野菜花き研究室 |

【ほうれんそう】

- | | |
|--------|---------------------|
| ① 作型 | 秋どり |
| ② は種期 | 10月上旬 |
| ③ 審査時期 | 11月中旬 |
| ④ ほ場地 | 千葉市 |
| ⑤ 担当機関 | 農林総合研究センター
野菜研究室 |

【にんじん】

- | | |
|--------|---------|
| ① 作型 | 秋冬どり |
| ② は種期 | 8月上旬 |
| ③ 審査時期 | 1月～2月 |
| ④ ほ場地 | 富里市 |
| ⑤ 担当機関 | 印旛農業事務所 |

千葉県農林水産部生産振興課